

# 雜 錄

## ○フレーベル會夏期講習會

遠くから來らるゝ會員、殊に海を越へて本島以外から來らるゝ方々の中には、もう旅程に上られた人々もある。既に着京して居らるゝ人々もある。手紙が來く電報が來る。皆講習會の開否に就ての間ひ合せである。一日を御遠慮申上げて八月二日から豫定の通り會を開きました。

中川會長の開會の辭について、すぐ富士川游氏の『異常兒童の研究』の講義が始まり、會員の方々は皆さん熱心に筆記せらるゝ。此の御講義が二時間、あとの二時間が赤津隆助氏の『幼稚園に於ける黑板畫の講義と實習。』講師の指さきから湧き出でもするやうな輕妙な黑板畫に會員の方々が皆感嘆せらるゝ。有益な富士川氏の講義が興味盡きぬながら豫定の通り六日間即ち七日で終つて其の後を倉橋本會幹事の『幼兒教育論』を十一日迄。赤津氏の分は十日間たつぶりの講義と實習を續けられて最も有益なる結果を與へられました。何分にも暑中を毎日々々十日間。殆んど缺席せられたとのない會員諸君の熱心は本會の最も喜びにたえなかつた處であります。殊に本年は百に近い多數の方が、中には非常な遠い地方からさへ御來會下さつて、全國の幼兒教育界の爲に多少なり貢獻したいと願ふ本會の趣旨を完ふさせて下さつたことは、中川會長の開會の辭にもありました様に、會の方から厚くお禮を申し上げ度いと思ふのであります。斯くて十一日、中川會長の開會の辭、講習證書の授與、會員總代山中半兵衛氏の答辭等の後一同記念の撮影をして、本年夏期講習會を終りました。尙ほ此の次の開會にも、之れにも増しての盛會を得度いものと思ひます。因に來會の聽講者數は九十二人。内男子六人、女子八十六人。之

れを試に地方別にして見ると次の様な割合になつて居ります。

東京府	四	大阪府	八
福島縣	五	神奈川縣	四
千葉縣	三	茨城縣	三
岡山縣	三	香川縣	三
群馬縣	二	栃木縣	二
三重縣	二	奈良縣	二
兵庫縣	一	長野縣	一
愛媛縣	一	秋田縣	一
愛知縣	一	新潟縣	一
長崎縣	一	熊本縣	一
北海道	一	朝鮮	一
大連	一		

## ○日本橋區組合會

七月の十二日日本橋城東小學校附屬幼稚園で、日本橋區組合會が開かれました。同幼稚園、常盤小學校附屬幼稚園、坂本小學校附屬幼稚園、第一幼稚園、養徳幼稚園の保姆諸君の他に坂東小學校長溝淵氏も臨席せられた盛會でありました。同會は創設以來久しきものであります。尙將來も隔月に開會して幼稚園教育の研究をつづけらるゝ由であります。

## ○高松にて

高松市で開かれた、香川縣教育會香川郡部會主催の講習會へ行つた機會を以て、八月十八日午後一時から、更に高松市、香川兩部會の聯合で、特に幼稚園教育に關する講演會を開かれたのは、斯界の爲めに少からず幸のことであつた。自分が講演して置いて斯

様のことを申すは甚だ變な様にも聞かれるか知らぬが、地方の教育會が、殊に二會まで聯合して、殊に幼稚園當事者以外の方々が多く集まられて、特に此の問題の爲の講演を希望せらるゝといふことは恐らく他に餘り例のなかつたことと思ふ。香川縣が初めではないかと思ふ。元來幼稚園直接當事者の會合でさへ餘り多くもないのである。況んや其の縣の教育會の副會長を部長、郡市の視學、それに男女兩師範學校長を始め、小學校長其他幼稚園教育以外の教育家の方々が多數、保姆諸君と席を一つにして幼稚園教育の問題を考へようとせられたことは、自分を離れて、此の問題の爲に、實に抑へ難き喜びを感じざるを得なかつたのである。殊に保姆諸君は香川縣内の各幼稚園から此の數時間の爲にわざわざ集つて居られる。小學校關係の方々は午前四時間の講習の後を再び此の席に臨んで居られるのである。暑い四國の夏の午后を氣をきかして短いお話を自分には勿論、聽かるゝ方にも幸福だといふ位のことには知つて居ないでもなかつた。併し私は聽講諸君の疲れに敢て頓着しなかつたのである。自分の咽の涸れるなどは勿論知らなかつたのである。初めは頼まれてお引受けしたのであるけれども、此の問題に關する四時間餘の長講演は、實はこちらから聽いて戴いたようなものであつた。

講演の後には自分は保姆諸君に向つて言つた。幼稚園教育に對する同情の少ない今の教育界に、斯くの如き長上先輩に指導せられて其の職に全力を致さるゝ香川縣の保姆諸君は非常なる幸福なる諸君である。幼稚園が發達しない。諸君の思ふ計畫が行はれないと言ふは、一概に經費々々といふけれども必ずしも左様ではない管理善なり監督官なり、上に立つ人々の幼稚園に對する同情熱心が少いからなのである。併し、たゞ不平を思ふのは無益なるのみならず愚なことである。各々其の職に努めて是等の人々の同情熱心を自ら喚起するより他はないが、諸君は既にそれを得て居らるのである。實に諸君の幸福を喜ばざるを得ないと。(倉橋生)

**本誌定價**

一冊 郵 稅 共 金 拾 壹 錢  
六冊 前 金 郵 稅 共 六 拾 錢  
拾 二 冊 同 金 壹 圓 貳 拾 錢  
郵 券 代 用 一 割 増

**購讀申込**

本誌購讀は方御希望の右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

**本會宛御用務**

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます  
(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレール會事務所宛  
會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
兩森劍宛

**本誌編輯の御用務**

(寄稿、廣告等)は東京府下千駄谷八七八倉橋惣三宛  
大正元年九月二日印刷  
大正元年九月五日發行

編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

印 刷 者 東京市本所區番場町四番地 登

印 刷 所 東京市本所區番場町四番地 登

發 行 所 東京市小石川區久堅町七十四番地 會

發 行 所 フレール會